科目区分	専門分野	授業科目	共通基本技術 （看護過程の基礎）
講師名		実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	1 年次　第 2 学期
授業概要 ＊講師からのメッセージ	看護援助の方法論である看護過程について学びます。 ゴードンの機能的健康パターンを用いて対象者の多様な情報（生活者としての側面、生物学的に共通する側面から）収集し看護の視点から統合して対象者の望み（意志）を共有しながらアセスメントする方法を学びます。		

目的：対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する
目標：１．看護過程の構成要素について説明できる
　　２．看護上の問題を明確にする過程が説明できる
　　３．個別性のある看護計画の立案方法が説明できる
　　４．看護過程の評価の視点が説明できる
　　５．看護記録について説明できる

回	授　業　内　容	授業方法
1	１．看護過程とは １）看護過程とは ２）看護過程の構成要素	講義
2	２．看護過程の展開 １）情報収集 （１）情報の種類、情報源、情報収集の方法 ２）アセスメントの枠組みと視点：ゴードンの機能的健康パターン ３）情報の整理・解釈・分析	講義
3	２．看護過程の展開 ４）事例を用いたアセスメントの実際 大腿骨頸部骨折術前、左介達牽引中の患者＜70 代女性・急性期＞ （１）情報収集 （２）情報の捉え方、振り分け （３）情報の解釈・分析	講義・演習
4		
5		
6		
7	３．関連図 １）関連図の必要性　２）関連図の種類　３）情報の関連性の把握 ４）関連図の作成の方法　５）事例を用いた関連図の作成	講義・演習
8	４．問題の明確化 １）看護問題の種類　２）看護診断 ３）共同問題　４）事例の看護問題の明確化	講義
9	５．看護上の問題の優先度 １）優先度の決定 ２）問題リスト ３）事例の看護問題と優先度	講義
10	６．看護計画の立案 １）目標（期待される成果） ２）介入方法の検討 ３）看護計画の表記 （１）観察計画（２）ケア計画（３）教育計画 ４）事例の看護計画	講義・演習
11	７．実施・評価 １）実施 （１）実施前の確認と判断 （２）立案した看護計画と毎日の看護計画の関係 ２）評価 （１）目標達成の判定 （２）看護問題、看護計画の追加・修正	講義

12	８．看護記録 １）看護記録の意義と目的 ２）看護記録の法的位置づけ ３）看護記録の構成 （１）基礎情報（２）看護計画（３）経過記録（４）看護サマリー ４）看護記録の種類 （１）SOAP 法（２）フォーカスチャーティング ５）看護記録及び診療情報の取り扱い	講義・演習
13	９．模擬患者を対象とした看護の実施と評価の実際 １）看護場面を見学し、実施記録を作成する	演習 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
14 15（45 分）	２）看護場面を通して、事例の評価記録を作成する	演習 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
16	終了試験　45 分	
授業方法	講義、演習、グループワーク	
評価方法	筆記試験 30 点、課題レポート 70 点　　評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［２］基礎看護技術Ⅰ 医学書院：ＮＡＮＤＡ-Ⅰ看護診断定義と分類 ＜参考図書＞ ヌーベルヒロカワ：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第 6 版 学研メディカル秀潤社：看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社：疾患別看護過程の展開	
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ、事例に関連した「疾病と治療」及び「成人援助論」	